

- 4. 機関紙の題字名を検討する。
- 5. 支部活動の電気工事工業組合の記事も掲載する。
- 6. スポンサー（広告掲載）を検討
- 7. 次回委員会を9月10日に開催し委託する業界新聞社にも出席願ひ詳細に審議する。

3. 引込線・保守管理新委員決まる

県電気工事工業組合委員会開く

県電気工事工業組合は8月27日電協会議館において引込線委託工事委員会及び共同保守管理委員会を開催し当面する問題について協議した。

工業組合の重要事業の一つである引込線委託工事については、現在東北七県電工連引込線委託工事協議委員会（県電工組より郡山支部加藤清治氏）が中心に活動しているが、本年度よりこの機関と緊密な連携を図りながら電力会社に理解を深める活動を行うため引込線委託工事委員会を設置し、新委員による会議は午前10時30分より開かれ委員長に加藤清治委員を選んだ。今日まで東北七県電工連における電力本店との接済経過や活動状況を聞いた。

また、共同保守管理委員会は午後2時より開かれ、改選によりあららに支部より推せんされた委員10名が出席し委員長に郡山支部の岡部義秋委員を選んだ。現況報告、業務推進に伴う諸問題について話し合い、契約の拡大促進について誓いあった。

引込線委託工事委員会委員

支部	氏名	会社名	備考
福島	高橋 武	高橋電気工業(株)	
郡山	加藤 清治	(有)加藤電気商会	委員長
白河	大竹 平助	(有)大竹電気工業所	
いわき	蛭田 耕人	(有)蛭田電機商会	
相双	宮原 善一	(有)宮原電気工業所	
会津	前田 徳哉	前田電機商会	

共同保守管理委員会委員

支部	氏名	会社名	備考
福島	渡辺 和学	信和電気工事(株)	
・	伊藤 敏一	(有)伊藤電気	
郡山	岡部 義秋	岡部電設(株)	委員長
・	三瓶 良孝	太陽電設(株)	
白河	道又一 生	(有)栄和電設	
いわき	蛭田 耕人	(有)蛭田電機商会	
・	宮原 隆	(有)宮原電気	
相双	小沢 丈丈	小沢電気商会	
会津	木村 正人	木村電気商会	
・	竹内 守	守電気店	

1. 技術講習会に260名受講

技術水準の向上と重要事業として協会の本年度技術研修の初回の講習会が8月7日午前10時より郡山市の労働福祉会館3階大ホールにおいて開催された。

この講習会は協会及び県電気工事工業組合加入企業の現場代理人、主任技術者を対象に施工管理上の諸問題を研究するとともに、関連法規の理解を深め、技術水準の向上と責任施工体制の確立を図る目的で行われ、県内の技術者を一堂に集めての講習会は昭和57年、59年に続き3回目の講習会である。

講師に橋本泰巳県土木部管轄課長、細川真雄同課主任、苗辺利夫同課課長補佐、苗地由和土木検査課専門工事検査員の4氏を招き、地元県郡山建設事務所、郡山市、須賀川市の設備担当者をはじめ受講者260余名が受講した。

講習会は定刻に始まり、黒田技術委員長の開会の挨拶に続き、大槻会長が「電気設備は益々高度化、複雑化、システム化してきており、高度な施工技術が要求されている。このため絶えず技術の向上を目指してゆかなければならない。今日の講習会も充分勉強され、技術の研さん努めて下さい。」とあいさつした。続いて各講師の紹介が行われ講義に入る。

橋本課長は「協会が技術の向上に力を入れておられることは充分承知しているが、このような幹部が受講されるのは、今日の県内の工事現場に支障があるのでないかと笑いのなかで講義に入る。県建築行政の機構、組織について話されたら、本年度公共建築工事の基本的目標として①施設に文化性ともなせ、②省エネ省資源対策、③身障者の利用対策、④施設の保全対策を重点とし、ほか⑤公共建築物のあり方、⑥諸施設の意識調査の実施、⑦ライフラインの考慮、⑧目的共同溝の採用など諒解と設定し「うらまゆめぐりのある」公共施設の創出に県としての取り組み方を模索された。最後に受講者に企業には勢いなくては駄目だ、活力のある職場にし、職員は常に大声を出すこと、特に挨拶は元気がよくなること大切だ、挨拶のアイ、ケ、ソは(ア)明るく、(イ)いつも、(ク)先に(他人より)、(ケ)続ける、と示唆し受講者が感銘のなかで降壇された。

続いて細川主任が「工事の管理」と題し建築技術者の立場から講義される。設計、施工管理に当っては建築物のライフサイクルを通して、安全性及び建築種別に応じた良質の確保を検討することが必要、契約内容と充分熟知し適切な施工計画に基づく良好な施工を行い完成させること、又運営管理のし易い保全とも考慮し、よりよい社会資本の蓄積に努力されるよう受講者に奮起を促した。益食後菊地講師は「昭和59年度工事検査結果」について検査を通しての問題点、改善を要する事項について詳細に説明され受講者も今後の工事施工に大きな参考になると思われる。

苗辺課長補佐は「受注から完成までの現場代理人の職責について」と題し現場代理人が工事の受注から完成引渡しまでの現場においてなすべき事項と系統的に詳細に講義された。

講義終了後、受講者から提出された質問に対し、各講師より親切な回答説明があり、新野技術委員長開会の挨拶で午後4時30分に終了した。

受講者は直接現場に關係する講義内容のため熱心に目を傾け、ペンも走らせるなど最後まで席を立つものもなく盛大な講習会であった。

2. 積極的な委員会活動

● 総務委員会

第2回総務委員会が8月27日午前10時30分より電協会議館において開催され、当面する諸問題について協議された。

1. 昭和60年度予算執行状況について 略

2. 会員入脱会規則及び内規の見直しについて

現行の内規は昭和54年制定のもので今日では実態に合わない條項もあり、特に資本金、年間完成工事高については改正の必要もあり、時間をかけ慎重に検討見直しすることとする。

3. グループ保険について

昭和54年の理事会において決めたグループ保険金より贈られる年寄金の額について会員より再検討の意見があり、種々協議したが、保険に加入できない高齢化会員、オーナーを後継者に引継いだ後死亡した場合の措置など種々問題もあり、継続審議とし、今後も会員の意向も充分取り入れ、理事会に諮り見直しすることとする。

4. 会員旅行について

11月上旬(11月6日-8日の予定)「秋の京都めぐり」を2泊3日の日程で行う。東京駅集合、解散とする。追って全会員に通知することとする。

5. 建設業経理事務4級特別研修について

「建設大匠認定建設業経理事務士4級特別研修」が11月10日、11日の2日間二本松市の福島県建設技術学院において実施されることになり、建設業協会より受講者の毎諸があり協議の結果、各支部より9月15日まで受講者と協会まで報告願ひ、その後協会より受講された会社に申込書を送付することとする。

6. 福島タイムズ社主催親善野球大会

第5回を迎えた親善野球大会が10月10日(木)午前8時より松川野球場(福島市法山地区)において開催される。協議の結果本年も福島支部においてチームを編成し出場することになった。

7. 機関紙発行について

10月中(10月1日開催予定)に理事会に招集し議決し得ることとする。

● 広報委員会

本年度第2回広報委員会が8月20日午前10時30分より電協会議館において機関紙発行について協議された。

1. 年6回発行を目途とする

2. 企画、取裁、編集、印刷、発送を業界紙に委託する。但し基本的な企画については協会の方針で進める。

3. 現在発行の「協会だより」は10月号までとし廃刊とする。

4. 中島春記氏仙台通産局長賞受賞

昭和60年度電気保安功労者表彰

仙台通産局長は昭和60年度電気保安功労者表彰式を8月21日仙台市の仙台共済会館において行われ、本協合理事、県電工組理事長の中島春記氏(富士工業会)が永年勤続者として仙台通産局長より表彰された。

5. 福島市の優良土木・建築工事表彰

田村電設が受賞に輝く

昭和60年度福島市優良土木建築工事表彰式が8月20日午前11時より市役所市長公室において行われた。

市は昭和59年度発注の対象工事584件の内、12部門27件を第一回審査、現地審査、最終審査等厳重に審査した結果、11部門12件が出来形、施工体制などが基準以上であり優良工事に決定された。

電気設備部門で「第一種公営住宅蔵駒団地」新築電気設備工事を施工した田村電設工業株式会社(田村忠男社長)が晴れの市長表彰に輝き、小野助役から表彰状と記念の盾が贈られた。

6. 協会のうさぎ

8.6	県地域住宅産業協議会設立総会	専務理事	建設センター
7	協会技術講習会	260名受講	郡山市労働福祉会館
17	昭和60年度中間調査		電協会議館
20	第2回広報委員会		・
22	桑山慶彦殿(巴電設事務)告別式	会長ほか多数	黒岩村のせや茶苑
23	第2回総務委員会		電協会議館
27	県建設産業団体連合会事務局長会議	専務理事	建設センター

あとかぎ

会員旅行のお知らせ

協会が隔年毎に行っている会員旅行を、本年は11月6日より8日までの2泊3日、京都旅行を実施することになりました。

追って各員に通知いたしますが、紅葉の嵐山、嵯峨野を中心にした各所、名園と見学する計画をたててあります。

是非多数参加下さるようお願いいたします。(あ)

2. 公共事業費予算の増額を

昭和61年度県予算に建設連より要望

昭和61年度県予算の編成にあたり、福島県建設産業団体連合会は9月25日建設業界の当面する要望を自民党県連政調会、社会党県議団、新政民社クラブ、県議会議員団及び県首脳部、県議会、及び道路住宅供給公社に要望を行った。当日午後1時より連合会の菅会長をはじめ大槻本協会の長ら県建設連の副会長ら20名が出席し、各政党に要望事項を説明し懇談し、午後4時より各都課県議会、公社等へ訪問し要望書も提出するまで午後4時まで精力的に行動された。要望事項は次のとおりである。

1. 公共事業予算の確保について

国の公共事業予算は厳しい財政事情により、昭和55年度以降抑制され、県の公共事業も実質発注額は減少してきています。

更に県内需要振興に大きなウエイトを占める民間住宅着工も昭和55年度以降厳しい経済情勢の影響から急減しています。これ以上、公共事業の抑制が続けば、元請はもとより職別専門業者、建設資材業者なども含めた建設関連産業の疲弊は、その限界に達し、地域経済にもゆがみ影響を及ぼすことが憂慮されます。

県におかれは、努めて公共事業の確保はもとより、積極的な早期発注を行うなど、適時適切な施策と請じていただいているところでありますが、なほ一層これらの事情をこまめに察下され、地域経済発展のため、県単独事業も含めて、是非昭和60年度を上回る公共事業予算の確保について特段のご配慮を賜りたくお願いいたします。

2. 建設産業の育成及び振興対策について

(1) 県内業者の育成について

県内業者の受注機会確保については、県の「県内業者優先発注」のご配慮により増加した。県の特別共同企業体方式が採られて以来、福島県立医科大学附属病院建設工事等、大規模工事に県内業者がその発注機会を奪われていたことについては深く感謝を申し上げる次第であります。

最近の県内業者は、県のご指導と積年の努力により、技術の開眼、施工能力の向上が著しいものがあり、且経営体質も充実改善され、極めて特殊なものを除き充分に対応し得る能力を備えるに至っております。

つきましては、大規模工事の測量、設計及び工事の発注につきましては、特別共同企業体の活用を含め、従前以上の県内業者優先のご配慮いただくと共に、分割可能なものについてはできる限り分割して、ご発注くださるようお願いいたします。

(2) 県内に進出する企業が受注する工事について

県におかれましては、県内産業基盤の拡大充実を図るため、優良企業の誘致に積極的に取り組まれ、県内各地に立地される企業が増加しつつあることは、産業経済に活力を与えるものとして誠に喜ばしいこととあります。

つきましては、県内に立地される企業の敷地の測量、設計、造成、建築設備等の施工について、できる限り県内地元業者に受注の機会も与えられるよう、当該誘致市町村及び進出企業へのご助言、ご指導をお願いいたします。

(3) 建設指導行政の充実及び建設業の振興について

建設産業は基幹産業として、国民総生産の20%、就業者数においては、全産業の10%を占め、地域経済の振興に寄与するところまことに大であります。

しかしながら、建設産業を指導育成する行政機構は、必ずしも十分とはいえないものがありますので、県におかれましては、建設業界の指導行政を担当する部門の充実強化についてご配慮をお願いいたします。

なお、当連合会は自らも経営の合理化、体質の改善等に取り組む一致団結して業界の健全な発展と地域経済の振興に努めているところでありますので、県におかれましては、今後とも特段のご配慮、ご指導をお願いいたします。

また、建設業界の裾野は限りなく広く、業種業態、雇用労働者の職種も多様ですが、魅力ある職種とはいえない面もあります。

最近の技術者、技能労働者においても年々高齢化が進み、人材確保が大きな課題となっております。このため職別団体や各企業においては、職業訓練等を通じ教育研修を実施しているところでありますが、これらの研修事業について特段のご配慮をいたさるべくお願いいたします。

(4) 設計・積算の適正化について

自主管理施工は、昭和49年度に試行されて以来、10余年を経過いたしました。建設業界では県のご指導の下に、体質の改善、経営の合理化、技術の向上に努め、自主管理施工体制の確立を回りに、県土建設の一翼を担うまいと努めてまいりました。

この間、県におかれは、設計・積算の適正化及び円滑な施工の確保のため種々ご配慮をいたさるべく感謝にたえないところであります。しかしながら、一部には現場条件、作業条件に適合しない設計積算や、指示書の遅れから工事の進捗に支障を及ぼす例も見受けられますので、これらの点の適正化について、ご配慮をお願いいたします。

一方、建設資材についても工事量の減少から需給の安定を図ることが困難となりつつある現状であります。県におかれは種々ご配慮されておられますことは充分に承知しており、また、他機関との関係もあると思いますが、生産原価と勘案した価格の設定の実現に特段のご配慮を賜りたくお願いいたします。

3 市町村が発注する建設工事等について

市町村が発注する測量、設計、建設工事については、その多くは、県内地元業者が施工しておりますが、一部市町村には、地元業者が施工可能と思われるものについても、大手県外業者に発注されている例が見受けられます。県内地元業者を育成する意味からも、従来にもまして、地元業者の優先発注をお願いいたしますとともに、公共工事の適正な施工と建設業の健全な発展を図るため、建設工事の入札制度の合理化対策の推進について、中央建設業審議会の各発注機関に対する建議(昭和58年3月16日)及び、福島県総務部長、国土部長連名による各市町村長宛の通知(昭和60年6月18日付)のご趣旨について、充分ご配慮されるようお願いいたします。

なお設備工事等についても、県に準じ発注されるよう併せてご指導をお願いいたします。

1. 猛暑に耐えながら安達ヶ原で学ぶ

第4回中堅技術者研修会

本協会が県建設産業振興事業団と共催で、昭和57年度より「福島市安達ヶ原」の県建設技術学院に実施している中堅技術者研修会の本年度第4回研修会が、9月3日より6日まで3泊4日の日程で会員企業の技術者41名が参加し開催された。

この研修会は電気設備が益々高度化、複雑化、システム化してきており、工事に携わる技術者の質的向上が求められておるから、現場代理人フラスの中堅技術者を対象に技術の研修を行うとともに宿泊を共にして規律ある集団生活を通じ心身を鍛練し、企業の将来を支える幹部の養成することを目的に実施しておるもので、今回で180名が受講されている。

第1日午後1時に会場に集合、オリエンテーションの後開講式を行う。席上大槻会長より「時代に即応する先端技術の修得をはじめ技術・精神面で成果を挙げ初期の目的を達成するよう」挨拶あり。次いで雪次建設技術学院長、国津副会長より矢張り励ましの言葉が贈られた。

最初の講義は本協会技術委員長黒田正之氏が「中堅電気技術者に望む」と題し、自社の現状や事例を参考に、これからの電気工事業のあり方、中堅技術者(中間管理者)の職責について講義された。講義内容が極めて現実的であるため、受講生には大変有益な講義であった。

次いで雪次建設技術学院長の講話に入る。「折衷」のテーマでの驕慢への自省、③陸流の思想、④窃夢の詩、⑤誕生の夜叉、⑥毒塊の思想、⑦道、⑧禅の思想の哲学の講義は受講生には理解しにくい面もあつたが、極めて示唆に富んだ内容に受講生は深く感銘を受けた。

第2日午前9時より午後5時までは、公電工務株式会社の前野武、森真純、鈴木達雄の3講師による「ビル管理システム」及び「集合住宅におけるHAシステム」のテーマで資料や機器、ビデオを使いながら、コンピュータ最新技術について講義された。

第3日午前9時より教養講座として福島民報社編集局長、論説委員の坂本弘が「時事問題」のテーマで国政、県政問題をはじめ、日米問題、世界情勢等について新聞記者の立場で論評を加えた講演に、日頃政治に関心の薄い受講生も興味深く受講された。

次いで県立福島中央高校大山和久教諭の「体力アップ」屋内体育館において実技と取り入れ指導された。

日頃運動の少ない受講生にとっては大分ごい、体力の不足を痛感されたが有意義な講義であった。

午後8時、常磐電機株式会社TQC推進本部長中田信次氏が「建設業のTQCについて」講師の巧みな話術と講義の内容が近年話題になっておるから受講生も耳を傾け心を取りながら熱心に受講された。

約70%の受講生がTQCに関心をもち、オーナーに達言する等積極的に研究したいと話を合っていた。

次いで「電気安全について」のテーマで講義された東北電力株式会社福島支店の大川配電担当課長は、事故の事例、災害の趨勢、安全管理の進め方など災害防止対策について説明され、労働安全を強調された。

第4日 最初に県土木部管理課長の橋本泰巳氏が建設権限のテーマで、氏の30数年の永年にわたる建築技術者としての経験と豊富な話題も巧みな話術で披露されるなど受講生は興味深く熱心に受講された。

最後に県管轄課長補佐の筒辺利次氏は「給排水衛生設備の知識」について講義された。現場代理人である受講生は建築現場において電気に関連する機械設備について充分知っておかなければならないとの配慮から特に取り上げられたこともあり、受講生にとっては大変参考になったことと思う。

この研修会は講義のほかには心身の鍛練を行うため、6時起床に始まり、炎呼吸、体操、坐禅等が組まれ、消灯10時と時刻の規則正しい生活、特に今年は何年にもない猛暑続き、毎日30度と越す中で冷房のない教室でネクタイ着用の講義、日頃慣れない受講生にとっては苦痛の4日間であった。

初日は不安とまどいで緊張しておつたが、慣れるに従い各部屋毎和気合々と話し合うなど交流が盛んで受講生にとっては後々まで忘れることのない有意義な成果のあつた研修会であった。

受講者名簿

支部	会社名	氏名	支部	会社名	氏名
福島	大槻電設工業(株)	土田 隆	白河(株)	白河電設	本橋 存一
・	・	長内 勝之	・	立東電気工業(株)	佐川 真敏
・	高橋電気工業(株)	阿部 裕美	・	東陽電気工事(株)	吉田 博史
・	(株)菅野電気工業所	菅野 正之	いわき	常盤電設産業(株)	鈴木 時光
・	日通建設(株)福島支所	今野 隆	・	大和電設工業(株)	澤 莊一郎
・	(南)渡辺電業	佐藤 高雄	・	植田電機(株)	蛭田 耕司
・	(南)二階堂電気	佐藤 直	・	三浦電気工事(株)	茅根 崇一
・	(株)大室電業	大和 宏美	・	小名浜電設(株)	坂本 勉
・	広栄電設(株)	菅家 孝三	・	會川電機(株)	鈴木 正勝
・	東邦電設工業(株)	山田 昇	・	常磐電産機(株)	吉田 弘一
・	(南)村田電設	野地 敏男	相双	(資)高橋電気工業所	鈴木 一
・	中央電気(株)	佐藤 泉	・	旭電設工業(株)	畑 中文夫
・	巴電設(株)	松崎 知也	・	谷津田電機(株)	渡部 敏
・	信和電気(株)	茂木 要	・	旭電気工事(株)	半谷 勝則
郡山	(株)郡山電機製作所	福田 清春	・	小島電設工業(株)	小島 清
・	阿部電気工業(株)	須釜 英一	会津	(株)光電設	小林 良法
・	日新電設(株)	鈴木 伸夫	・	(株)会津電設工業会	高橋 常広
・	光健電気(株)	黒沢 博文	・	(株)小松電機商会	弓田 健吉
・	太陽電設(株)	江川 勝夫	・	(南)和合電機	菅山 由一
・	北光電設(株)	影山 清美	・	(南)日黒工業商会	欠 政雄
・	佐藤電気(株)	根本 景吉			

1. 第4回理事会開く

本協会第4回理事会が10月1日午前10時30分より県電協会館において理事21名が出席し、当面する次の事項について審議された。

- 1) 昭和60年度予算執行について
2) 各委員長報告
● 総務委員会
① 役員旅費規約の一部改正について
② 吉田元、坂本前会長の写真も掲載する。
③ 建築設備安全センターの設立
● 技術委員会
① 8月7日 郡山市労働福祉会館において技術講習会開催
② 9月3日～6日 二本松市県建設技術学院において中堅技術者研修会
③ 11月下旬 現場研修会と会津若松市に建設中の県立博物館建設・電気設備工事を対象に開催する。
● 広報委員会
① 会誌名誌も8月1日付で発行、協会のみならず、沿革と記載し、PRを兼ねた名誌とした。
② 機関紙発刊について
1) 会員の入脱会に関する内規一部改正について
2) フルーフ保険について

2. フルーフ保険料は協会に払込み

本協会福利厚生事業の一環として昭和53年度より実施しているフルーフ保険は、11月1日より第8年目の更新を迎えるところであり、すでに各社は更新、或いは新規の申込み手続きが終了されたことと思います。
さて、今回より保険料掛金の払込みは、協会が一括申し込み保険会社へ送金する制度に変わりました。
このため協会では、あらかじめ保険料専用の銀行口座を設けましたので、毎月20日まで口座に振込して下さい。
従来のように受託会社へ直送したり、集金扱いはできなくなりまして、間違いのないようお願いいたします。
払込金額が少額の場合は2ヶ月、半年分あるいは1年分を一括送金されても差支ありません。

振込先

常陽銀行 福島支店
預金種目 保険口
口座番号 9003894
名義 福島県電設業協会

※ 常陽銀行は協会において送金手数料免除の承認を得ておりますので口座を設けたものです。
他の金融機関を利用する場合、保険料から送金手数料と差引がないようお願いいたします。

3. 11月29日に現場研修会を開催

県立博物館建設現場を対象に

本協会第2回目の技術委員会が10月15日午前10時30分より電協会館において開催され、本年度現場研修会の実施を中心に協議された。

協会の本年度第3回目の技術研修会を来る11月29日に、現在県会津若松市に建設中の県立博物館建設現場を対象に県会津若松建設事務所を指導して開催し、当日は午前11時より全会津電気工事協同組合において担当官より建設の概要説明を受け、午後1時より現場研修を行う。

この研修会には本部技術委員をはじめ各支部より2名及び会津支部会員ら20名の約40名をもって実施することと決めた。

3. 全会津市町村長と初の懇談会

建産連、講演会・地域懇談会を開く

県建設産業団体連合会(会長 菅家忠男 県建設業協会会長)は9月27日会津若松市の若松建設会館において、全会津地方を対象とした地域懇談会が開かれた。

この懇談会には井上孝参議院議員、東北地建、北陸地建、道路公園仏台建設局の各工事事務所長、県及び国会津地区の建設、農地、林業事務所長、県住宅供給公社会津若松市長、喜多方市長をはじめ、会津支部の市町村長、それに建産連構成37団体の会長、理事長及び会津地区の支部代表者ら130名が出席された。

懇談会に先立ち午前10時から移動役員会が開かれた後、10時40分から井上参議院議員が「公共事業を取りまく諸問題」と題し、昭和60年度公共事業予算編成の経緯、入札制度合理化対策問題、歩切り、アンペラの防止、61年度国予算編成の問題等について1時間以内で講演が行われた。昭和59年参議院議員に当選以来今日まで公共事業推進に力と注がれてこられた先生だけに、講演の内容も出席者の注目を集め極めて有意義な講演であった。

11時40分より地域懇談会に入る。連合会の組織、活動状況を紹介した後、菅家会長の挨拶、来賓の紹介が行われ、市町村長を代表して猪俣会津若松市長の歓迎のあいさつがあり懇談に入る。

最初に東北地建福島工事事務所長より国道115号線土湯道路建設の状況、道路公園郡山工事事務所長より東北横断自動車道いわき-新潟線について説明が行われた。

このあと市町村及び業界側より、市町村工事の地元企業優先発注、設備工事の分離発注、骨材資源の開発、アンペラ問題、最低利限額の払い、大手企業の見解等多くの意見や要望が出され、井上先生、国、県代表より、それぞれ答弁、説明がなされるなど、建産連が初の試みとして開かれた懇談会は大成功裡に終了された。今後引き続き他の都市部において実施され、建産連のPRに力と注ぐべきであろう。

この会議に本協会より大槻会長、支部代表として新田理事、電気工事工業組合より中島理事長、紺野副理事長、前田理事が出席された。

4. 福島県最低賃金(地域最賃)の改定について

福島県最低賃金(地域最賃)について昭和60年10月10日から下記のとおり改定された。

この最低賃金は福島県内の事業場で使用されるすべての労働者に適用されますので、使用者は労働者に対してこの最低賃金以上の賃金を支払わなければなりません。

Table with 3 columns: 件名, 最低賃金額, 除外賃金. Row 1: 福島県最低賃金, 1日 3,193円, 精養勤手当, 通勤手当, 家族手当. Row 2: 1時間 400円 (賃金が時間によって定められる)

5. 機関紙「電設新聞」12月より発刊

本協会の組織、活動状況を発注者をはじめ関係機関の方々にご理解をいただくとともに、協会へ会員、また、会員相互のパイプ役を果し、業界の将来の方向は勿論、電気設備工事業界の進歩向上を図ることも目的に検討を進めておいた機関紙発行については去る9月10日開かれた第3回広報委員会において発刊内容も次のように決定された。

- 1) 機関紙名称を「電設新聞」とする。
2) 隔月毎に発行し、発行月は遇教月とする。増刊号を含め年7回とする。発行日は10日とする。12月に創刊号を発刊する。昭和60年度は12月、1月、2月の3回とする。
3) 新聞紙の色はレモン色とする。
4) 新聞はタブロイド版とし4頁、10段、56行とし、1段は10字とする。
5) 企画、編集、印刷及び郵送を福島タイムズ社(ト部社長)に委託する。
6) 高橋(幸)委員長、高橋(武)吉田、渡辺(南)委員、事務理事をより敏す編集委員とし発行を担当する。
7) 記事は真面目に大筋を決めるが、協会の活動状況を中心に編集。メーカーの研究開発や新製品の紹介記事も掲載する。
8) 広告についてはメーカーを中心に後段2段及至3段の範囲内で掲載

6. 協会のうごき

Table with 3 columns: No., 内容, 会場. Rows include: 第4回中堅技術者研修会 41名受講 (二本松市 県建設技術学院), 公共建築問題研究会第1回準備会 遠藤副会長 (県建設センター), 第3回広報委員会 (電協会館), 正副会長会議, 県建設産業団体連合会第4回正副会長会議 会長 (県建設センター), 下山勝彌氏(下山電工)子息結婚式 会長 (二本松市), 公共建築問題研究会第2回準備会 事務理事 (県建設センター), 昭和61年度県予算編成に関する要請 会長 (県議会 会津), 県アレハブ建設協会創立20周年祝賀会 国津副会長 (郡山市), 建産連移動役員会・講演会・地域懇談会 会長 (会津若松市)

7. 建設業退職金共済制度普及協力者表彰

早川電気工業(株)が受賞

建設業退職金共済事業本部は毎年10月に「建退共制度加入促進強化月間」と定め、月間行事の一環として、制度の重要性を認識し、率先して加入の促進に尽力され建設業の発展と労働者の福祉の増進に寄与された優良事業所を表彰しているが、本年度は10月22日開催された県建設業協会役員会の席上表彰式が行われた。

本協会より早川電気工業株式会社(早川武邦社長)が福島県支部長表彰に輝き、菅家支部長より賞状と記念品が贈られた。

8. 協会のうごき

10.1	第4回理事会	理事21名出席	電協会館
5	公共建築問題研究会第3回準備会	専務理事	建設センター
9	正副会長会議		電協会館
10	福島タイムズ社主催、県建設関係機関団体親善野球大会		松川野球場
		会長ほか40名参加	
14	県建設産業団体連合会第6回正副会長会議	会長	建設センター
5	県木造家屋建築工事安全対策委員会	中島理事長、専務理事	福島労働基準局
15	第2回技術委員会		電協会館
24	県建設労働者研修センター落成式	遠藤副会長	福島市土湯町
28	公営住宅政府予算確保陳情	専務理事	建設省、大蔵省、県選出国会議員
29	公共建築問題研究会第4回準備会	専務理事	建設センター

廃刊のさあいさつ

本協会の広報活動の一環として発行してまいりました「協会だより」は、来る12月より本格的な機関紙「電設新聞」が発行されることにより、本号をもって廃刊することになりました。本協会は昭和22年8月創立以来、県当局をはじめ関係各方面のご指導とご支援をいただきながら、会員とともに、各般にわたる事業活動を積極的に進めてまいり、今日電気工事業者の社会的地位が確保されてまいりましたことは、ご同慶に堪えません。

さて、本協会は従来より啓蒙宣伝活動に欠ける面がありましたので、会員皆さんに協会の活動をご理解いただくため、昭和64年6月に手書きの機関誌第1号を創刊し、以来今日まで6年半、第78号まで発行してまいりましたこととさせていただきます。

企画、編集もまた多くの素人、しかも手書きの機関誌は、今日の発達した機械化に逆行したものでしたが、月刊誌として一回も欠けたことなく発行できたことは、皆さん方の多大なるご理解とご協力の賜と深く感謝申し上げます。長い間「愛読」いただきまして、ことに対し深く御礼申し上げます。廃刊のさあいさつといたします。(安部)

4 活性化へ製・販・工一体で

金沢市で第3回電気工事業全国大会開催

「活力と協調で21世紀に躍進」「業界の明日を語り合おう」とメインテーマとした全日本電気工事業組合連合会(米沢外秋会長(石川県電工組))の第3回電気工事業全国大会が、10月24日石川県金沢市文化ホールで開き、全国5万人組合員の代表1,200人が参加。転機に立つ中小電気設備工事業界の活性化のため、製・販・工一体とらび取り組みを進めていくことを確認し合った。この大会には昨年に続き、韓国電気工事協会の沈相南会長ら17名の代表も参加、技術交流の推進と友好親善を呼びかけた。

この大会は分科会と本大会で構成され、三つの分科会ではそれぞれ●転機に立つ電気工事業界の対応について●技術営業の拡大(ニューメディアを含む)をどう進めるか●電気工事業界に未来はあるかの一のテーマで活発な討議が行われた。

第1分科会では過当競争問題と価格の正常化について5人が意見発表し、論議が集中。第2分科会では電話工事やホームオートメーションなど新しい需要開拓の事例発表がなされ、出席者の注目を集めた。2時間にわたる熱心な討議の結果を本大会で各座長から集約して発表され、米沢会長がこれを受けながら「21世紀の総仕上げの新しい年代に入るに当たり、全国5万人の組合員と組織の全面的な実態調査を行い、ニューメディア時代における中小電気工事業界の対応を打ち出す基礎を作り上げたい」とあいさつ。①マーケティング防止と分業注力拡大と積極的に取り組む②ニューメディア時代に対応すべく新開放の電話工事やホームオートメーションへの積極的なアプローチを進め、技術営業の拡大に努める③後継者のための安定した業界づくりに努力を重ねる一の3点を大会決議に採択した。

この日、通産大臣、建設大臣(いづれも代理)、中西石川知事、矢田県議会議長ら十氏が祝辞を述べ、次期開催地と大阪府に決めた大会の幕が閉じられた。

閉会後会場も別に移し、参加者全員による懇親パーティーに入り、第3回大会を祝った。

この大会に本県電工組から中島理事長、紺野、成田、梅津副理事長、専務理事、谷津田、十文字理事の7名が参加した。

5 電力福島支店幹部と初の懇談会

県電気工事工業組合

県電気工事工業組合は10月18日、福島市のエクスプラントホテルにおいて東北電力(株)福島支店幹部と初の懇談会が開かれた。

当日午後2時より開かれ、電力側より冨田副支店長、杉山総務部長、鷲尾送配電部長、中沢営業担当課長、大川配電担当課長ら5名、県電組より池添相談役、中島理事長をはじめ、紺野、成田、石川、梅津、阿部副理事長、専務理事が出席して行われた。

この懇談会は電力需要の推進や電気安全について種々話し合い、電力、工事業界が

一層連携を密にし、事業の推進を図ることを目的に開かれたもので、中島理事長が挨拶のあと、冨田副支店長が挨拶を兼ね、本年度上期の電力需要状況や今後の見通し、原油問題、原子力発電の現状、円高差益に伴う電気料金値下げ問題、貿易摩擦に関連する電力の設備投資、輸入機器の協力、供給信頼度問題、労働安全等について、東北電力の経営活動について詳細にわたる説明がなされることも、組合に対する協力要請がなされた。

次いで専務理事より工業組合の概要について説明し、懇談会に入る。

懇談会では正副理事長の冨田副支店長の説明内容も主として質疑のほか、今後の配電関係、投資見直し、温水塔、アンペアの変更、電力料金の口座振替、標準処理日数、窓口態勢の問題など数多くの意見交換が行われ、初の懇談会は極めて有意義な実りある会であった。

この懇談会に引き続き正副理事長会議が開かれたが、その席上において池添前理事長に対し感謝状と記念品が中島理事長より贈られた。

6 電協チーム決勝戦で惜敗

第5回県建設関係機関団体親善野球大会

福島タイムズ社主催による第5回県建設関係機関団体親善野球大会が10月10日福島市湖山の松川野球場において、官公庁6チーム、業界4チームの10チームが参加して行われた。

当日は体育の日で絶好の野球日和。午前8時より開会式が行われ、出場チームの選手をはじめ、清水県土木部長、橋本管轄、加藤住支課長、地建福島工事事務所長ら官公庁、建設業協会谷口副会長、大槻本協会会長、吉川空調衛協会会長ら業界の来賓、それに応援団ら多数が参加した。

本協会からは会長をはじめ坂本常任相談役、中島県電工組理事長、遠藤副会長、佐藤春雄監督、高橋武主将それに福島支部会員、選手ら40名が参加した。

主催者の下柳社長の挨拶、来賓祝辞につき、昨年優勝した電協チームの佐藤監督より優勝旗の返還、選手宣誓のあと、5時30分より2面のグラウンドを使い、熱戦の火が切られた。

電協チームは福島支部企業より取り返しの混成チーム。1回戦は県農地林務部(本庁)と対戦、着実に点を重ね、6対0で圧勝。準決勝は2戦も勝ち抜いてきた県土木部(本庁)と対戦、最初から投手戦となり互いに点に結びつかず、延長8回、回頭の末電協チームは貴重な2点をとり土木部を下した。

決勝戦は初優勝を狙い、着実に勝ち進んできた測量設計業協会チーム。試合は振返り抜かれたものの好試合、思わぬ展開であったが、2回裏、測量チームが延長寸前二死から走者を一塁において、次打者がセンターのグラブはじくヒットで走者生還し、惜しくも優勝を逃した。2連覇は逃したものの電協チームは随所に試合巧者振りを発揮し、さすが電協チームと賞讃され、大会を大いに盛り上げた。